

ファルコンストア・ジャパン

NRIがVTL（仮想テープライブラリ）製品を採用 ～iDC入退館証跡情報のバックアップシステムとして本稼動～

施設管理ツールとして 「VirtualTape Library」を採用

野村総合研究所（NRI）は、ネットワークストレージソフトウェアのリーディング・カンパニーであるファルコンストア社のVTL（仮想テープライブラリ）製品「VirtualTape Library」を、同社の施設管理のツールとして採用した。また今回採用されたVirtualTape Libraryは、NRIが所有するiDCにおける入退館時の証跡情報のバックアップシステムとして2008年2月から本稼動を開始する。NRIでは、iDCのセキュリティ強化のために、証跡情報のデジタル化と複合化を推進しており、従来紙ベースで保存されていたデータをデジタル化して自動保存するツールとして、ファルコンストアのVirtualTape Libraryを選択した。

iDCのセキュリティ向上のために

NRIのITアウトソーシングソリューションは、24時間365日、顧客の安定した業務を保証するシステム運用サービスで、メインフレームやサーバ、ネットワークの安定的運用を実現する「システム運用ソリューション」、システムやデータを大規模災害の脅威から守る「データセンターソリューション」、コールセンターなど、あらゆる業務をサポートする「マネジメントソリューション」から構成されている。

NRIは3年ほど前から、同社が運営するiDCのセキュリティ強化を図るために、従来紙ベースの申請書で行ってきた入退館時の証跡情報管理のデジタル化を検討してきた。デジタル化によって、管理の効率化を図るとともに、ユーザーの要請があった場合に、すぐに証跡情報を提出できる体制を構築しようと考えたのである。

証跡情報の保存は、従来から数ヵ月分をとっておく形だった。しかし、紙ベースの場合ボリュームが膨大になるため保管も大変である。また、ユーザー企業やその会計監査法人から閲覧を求められた時にも、必要な情報を探し出すのに時間がかかっていた。

証跡情報のデジタル一元管理を目指して

今回のVTLの導入にあたり、NRIでは、これまではシステム単位だったバックアップデータの管理を一元化してスペースを集約するとともに、保存データの検索・閲覧性を高め、ユーザーへのサービスを高度化することを考えた。また、デジタル化にあたっては、申請書を紙ベースからファイル入力へ移行してデータベースに保管するとともに、それまではデジタルカメラで撮影して別途保管していた入館者の顔写真や館内持込のノートPCなどの手荷物データ、セキュリティゲート通過時に記録されるID情報なども一括保管を目指した。

その他にも、動くものを発見すると自動的に撮影を始めるセンター内の監視カメラの動画など、一連の情報を一括で管理保管できる体制を構築するために、バックアップシステムの導入を検討した。

野村総合研究所 システムマネジメント事業本部 アウトソーシング営業担当部長の増永直大氏は、今回の導入動機について次のように語っている。

「NRIではコンサルティングからサーバ運用まで一貫したサービスをお客様に提供しています。iDCは35年くらいの運用経験があり、金融機関などを中心にご利用いただいています。最大の特徴は高信頼性で、それを理由に選択いただいているケースが多いです。私たちはこの信頼性を高めるために常に努力を続けており、今回の

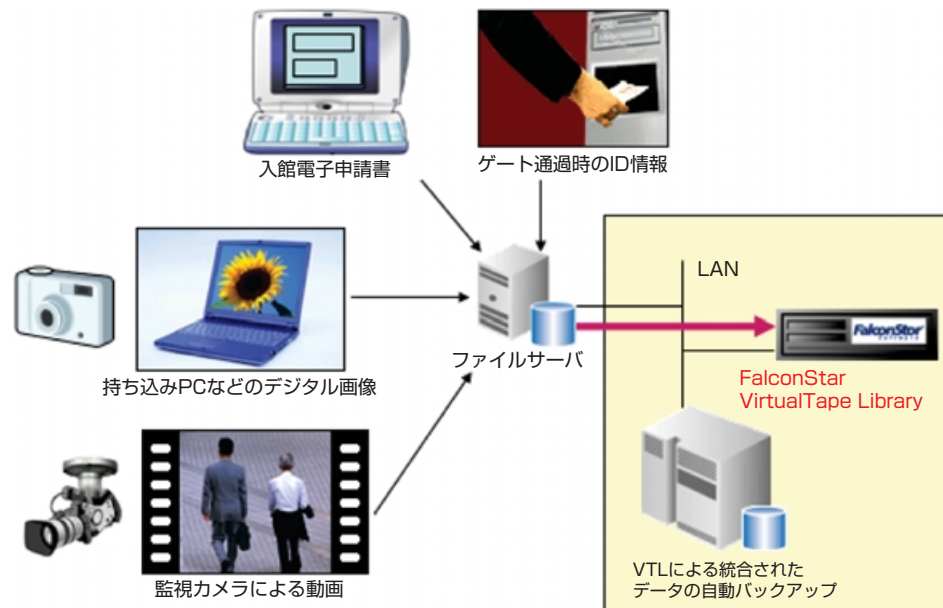


図1 ファルコンストアVTLによる入退館証跡情報のバックアップシステム

VirtualTape Libraryによる仮想テープライブラリでのバックアップシステムの導入もその一環です。」

接続性とコストパフォーマンスの良さで選択

バックアップツールの選定にあたっては、情報量がさほど膨大ではないため、ツールに不必要な高性能は要求しなかったそうである。また、ミッドレンジのパフォーマンスをローコストで実現できるツールというのが一番の選択ポイントだった。しかし、現在市場に出回るバックアップ製品の多くは、小規模利用をターゲットとした拡張性に欠ける製品か、大規模向けのオーバースペックで高価な製品であったため、ミドルレンジを中心に広い範囲をカバーでき、コストパフォーマンスに優れたファルコンストアのVirtualTape Libraryが選択された。

NRIの増永部長は「iDCという性質上、センター内には、様々なベンダー製のサーバや、それをベースとしたシステムがあります。そのため、テープ装置ベンダーやバックアップソフトベンダーに依存せずに、オープンに接続性の自由度が必要になります。そこで、既存の様々なシステムとの接続性が柔軟に実現できるVTLが最適だと判断しました」と、VirtualTape Libraryのオープン性

も選択の理由としてあげている。

今後は他のデータセンターへ展開

信頼性に重きを置くNRIでは、導入にあたりパフォーマンス面や安定性などについて厳格な独自の基準によるテストを、今回の導入に携わった日立情報通信エンジニアリングと協力して実施し、テスト期間は3ヵ月にも及んだが、VirtualTape Libraryはそれに見事合格。自動的にバックアップデータが集約されることが確認でき、トラブルなくテストを終え、2007年10月に選定が完了、その後、本稼動に向けた準備作業が進められた。

今後の計画について、NRIの増永部長は「将来的にはより高度な情報を集積し、お客様との通話記録も音声データとして保管する体制をとりたいですね」と語っている。また、NRIが保有する別の複数のiDCでは、これまでそれぞれのiDC単位での証跡情報のバックアップ体制を構築運用してきたが、今回の導入を受ける形で、VTLによる統一的な複数iDCの証跡情報バックアップ体制の構築を検討していくそうである。

ファルコンストア・ジャパン(株)
TEL : 03-3556-0211 E-mail : marketing@falconstor.co.jp